

沖縄女子短期大学・与那原町共催
ピンチをチャンスに！コロナ禍における
課題解決型オンラインインターンシップ

沖縄女子短期大学

教学課主任 津波古 吟枝

オンラインインターンシップ導入の背景

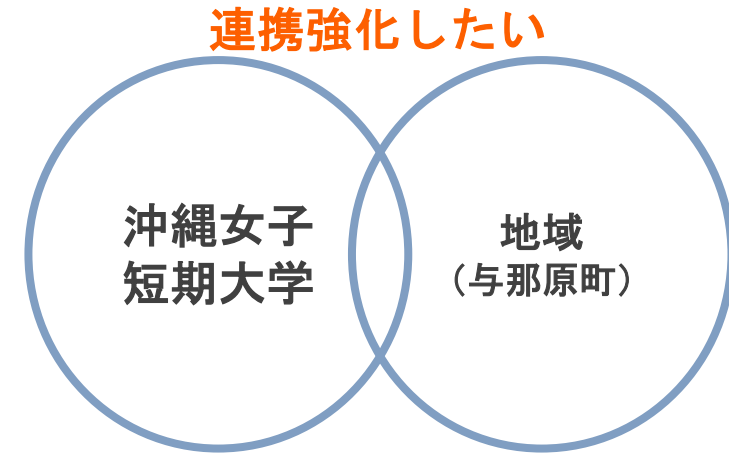
沖縄女子短期大学の教育目標

- 1、気品と社会人基礎力を備え、自ら学び続けることのできる人
- 2、平和を志向し、地域創生へ参画することのできる人
- 3、未来を見つめ、専門性の向上に努力できる人



実現のために

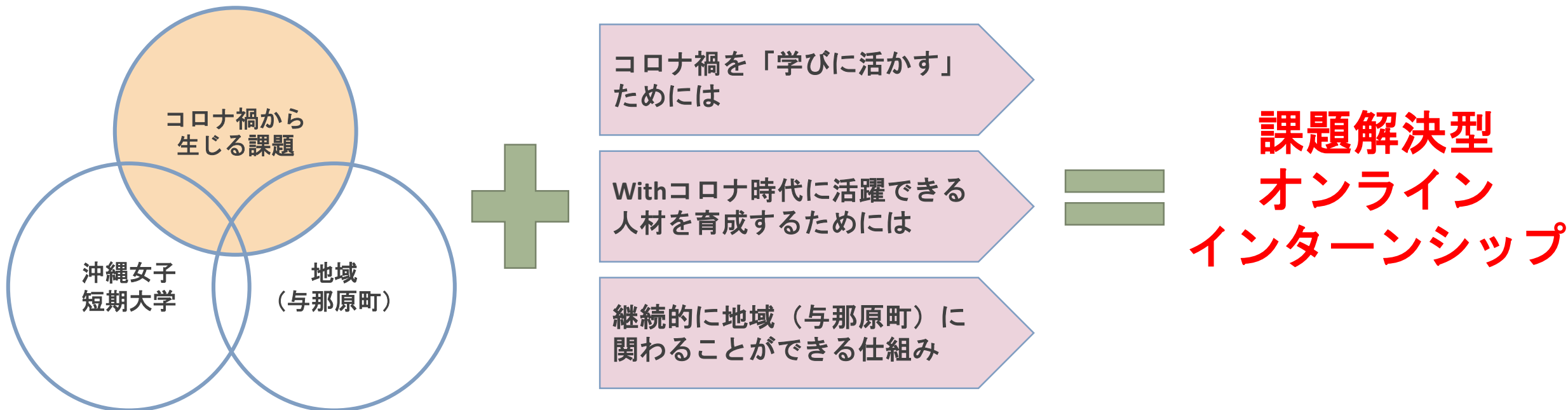
地域と関わる課外活動をし、
自分なりの意見と行動ができることが重要。
⇒与那原町と連携を強め、機会の充実を図りたい。



新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、状況は一変！！
新たな課題として

- これまでのインターンシップや課外活動等を実施することが困難。
- 就職活動の面接でオンラインでのコミュニケーションに対応できずに困惑している学生が多数。
- 今後の「働き方」の概念が変わる。

オンラインインターンシップ導入の背景

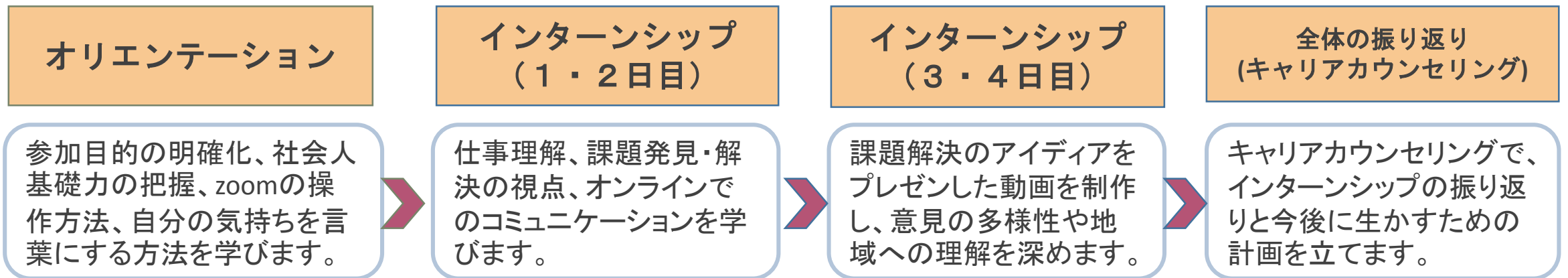


到達目標

- 「与那原町」を知り郷土愛を育む
- 行政の仕事理解、そこで働く人の働き方、想いを理解する。
- 地域の課題を発見し、課題解決むけて取り組み、自分の意見を伝えることができる。
- 「新しい生活様式」に向けてzoom等オンラインでのコミュニケーションに慣れる。

プログラムについて

- 2020年9月7日～9月25日の期間中に、オリエンテーション、インターンシップ4日間、キャリアカウンセリング1回（60分）を実施。
- 総合ビジネス学科2年次3名、児童教育学科1年次3名 計6名参加
- 学生とは対面で会わず「完全」オンラインで実施できるように作成。



作成のポイント

- 与那原町の課題を当事者意識で取り組むための仕組みづくり
- 日々の振り返りの時間を重視。
※「自身の感情に向き合う（内省）→言葉にする→書く」という一連の流れを繰り返す

活用したアプリケーション一覧表

ツール	使用方法	機能	注意点	代替アプリケーション
ZOOM	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 講座 ➤ コミュニケーションワーク ➤ プレゼン録画 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ブレイクアウトセッションを使用した具グループワークが可能 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Wi-Fi状況により声が遅れる、画面が止まることもある。 ➤ 天気にて左よって左右される。(雷、停電) ➤ 使い方のルールが必要。安心・安全の話せる空間の工夫。 ➤ 疲れるため適度な休み時間が必要。 	Google meet ※ブレイクアウトセッションのような機能に工夫が必要)
Glaxa (eラーニング)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 課題収納 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ いつでもどこからでも課題を見ることができる。 		Google classroom
Slack	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 職員と学生の掲示板 ➤ 学生間の掲示板 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 電話が使える。 ※Wi-Fi環境により連絡が取れなくなることも想定して、電話が使用できることから導入。PCとスマートフォンどちらもアプリを入れる(無料アプリ) ➤ メッセージの通知時間を制限できる。 		Google classroom ※電話機能なし
Googleドライブ	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 課題提出。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 容量の大きいデータの受け渡しが可能 		
Power Point	<ul style="list-style-type: none"> ➤ プレゼン資料の作成 			Google スライド
Google フォーム	<ul style="list-style-type: none"> ➤ インターンシップ申し込み ➤ 課題の評価 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 動画と評価票をフォーム内に入れることができ、発表会の参加者以外でも評価をしていただける。 		

インターンシップの様子



学生は自宅もしくは大学で受講。
希望者にPC貸出。



各々のPCより発信。
照屋与那原町長より激励の挨拶を頂く。



ZOOMの表示画面



(1日目) 与那原町役場の様子。グループセッションに分かれて、仕事のやりがいやきっかけなどを教えていただく。



(2日目) 「選挙・公共交通機関・観光」について与那原町の担当職員より現状と課題についてお話頂く。



(3日目) 個人ワークとして与那原町の課題に自分なりの解決策をプレゼンした動画(5分~7分)を作成する。学生同士でZOOMを使用してお互いの案を高める様子が見られた。

インターンシップの様子



(4日目) 課題発表会。作成した動画に対し、与那原町の担当課長より講評を頂く。学生6名、与那原町職員9名、沖縄女子短期大学教職員4名が参加。

与那原町からあげる 若者の投票率

発表者

沖縄女子短期大学
総合ビジネス学科 ビジネス心理コース

学生が作成した動画。
後日Googleフォームを使用し、
与那原町職員、沖縄女子短期大学職員より
動画に対して評価を頂き学生にフィード
バックした。

課題発表テーマ・タイトル 選挙

- 分からない選挙から分かる選挙へ
- 与那原町からあげる若者の投票率

公共交通機関

- 循環型コンパクトシティ
- 公共交通機関について

水路を利用したイルミネーション

- 水路を舞台にしたサマーイルミネーションフェスティバル
- 与那原町知名度低め！？インパクトを！

効果① 到達目標について～学生自己評価

到達目標

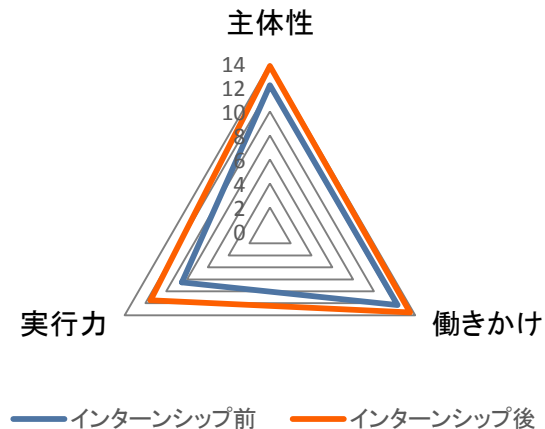
下記項目に対し、「とてもそう思う」「そう思う」「少し努力が必要」「かなり努力が必要」の評価の内、該当するものに回答。

- 「与那原町」を知り郷土愛を育む。 「とてもそう思う」 100% (6名中6名回答)
- 行政の仕事理解、そこで働く人の働き方、想いを理解する。 「とてもそう思う」 83% (6名中5名回答) 「そう思う」 (6名中1名回答)
- 地域の課題を発見し、課題解決むけて取り組み、自分の意見を伝えることができる。 「とてもそう思う」 100% (6名中6名回答)
- 「新しい生活様式」に向けてzoom等オンラインでのコミュニケーションに慣れる。 「とてもそう思う」 100% (6名中6名回答)

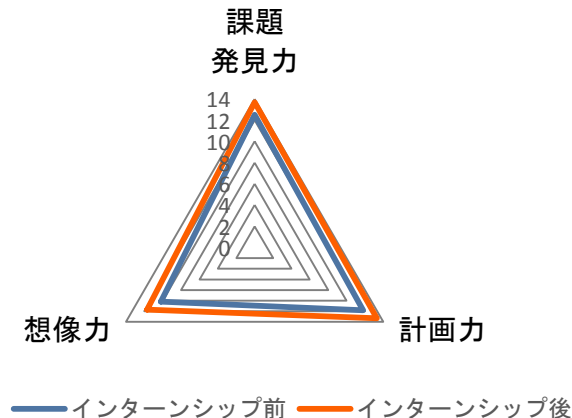
効果② 社会人基礎力について～学生自己評価

- オリエンテーションとインターンシップ最終日に社会人基礎力についての自己評価票を回答。自己評価票は、厚生労働省「平成29年度労働者等キャリア形成における課題に応じたキャリアコンサルティング技法の開発に関する調査・研究事業」参考に作成。
- 「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3側面、計60項目に、「かなり当てはまる（3点）」「やや当てはまる（2点）」「あまり当てはまらない（1点）」「当てはまらない（0点）」とし、参加学生の平均値をグラフ化した。
- インターンシップ前、全体的に高得点だが、「実行力」、「発信力」は比較的低い傾向があった。
- インターンシップ後、学生全員が上昇した。特に、「チームで動く力」が高く、「規律性」「状況把握力」、「柔軟性」、「傾聴力」はオンラインでの対面よりも不自由な状況およびアプリの工夫次第で学生間でコミュニケーションや情報交換の幅が広がる環境も影響していると考えられる。

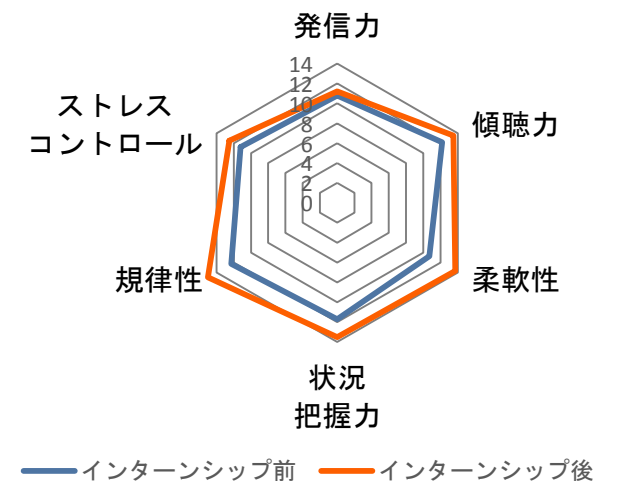
前に踏み出す力（アクション）



考え抜く力（シンキング）

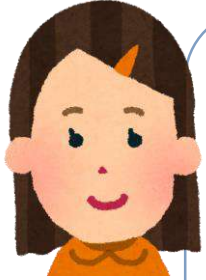


チームで働く力（チームワーク）



効果③ 学生の感想

Q.社会人基礎力の中で特にどんな力が伸びたと感じていますか？



「傾聴力」

オンラインでのコミュニケーションをきっかけに、頷く、笑顔等の「非言語コミュニケーション」を充分に使うことを意識するようになった。久しぶりに会ったクラスメイトから「表情が明るくなった」と言われるようになった。



「課題発見力」

与那原町の課題を、課題解決のアイデアの提案を通じて、裏付けデータを調べたり、提案の効果を考える過程でこれまでよりレベルアップしたように感じる。



「働きかけの力」

自らグループのために行動を起こすようなリーダーシップ性はこれまで感じることは少なかったが、「いいものを作りたい」という制作意欲があると自然に行動ができるという新たな自分を発見した。

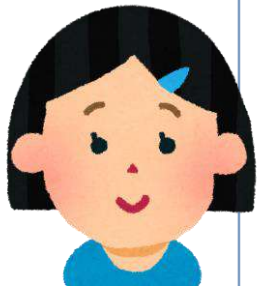
自己理解が深まり、自己肯定感が高まっていると思われる。

効果③ 学生の感想

Q.参加後、気持ちや行動の変化がありましたか？



受講前は親の付き添いで役所に行った時、いつもならスマホを見たりしていたが、掲示板や配置図を見て部署の種類や、役割について興味を持つ自分がいた。視野の広がりを感じた。



「人とのつながり」の重要性を再認識できた。 コロナ禍では人との接触を避けるため、課題等一人で作業することが多くなっていたが、誰かと共同で作業したり、複数名の会話から新しいことを発見したり、価値観を広げられたり。人と人が支え合うとよりいい方向に転換して行くことができることを実感した。直接会うことのできるこれまでの当たり前は有難いことだったと認識した。

これまで気がつかなかったことに気づくなど、視野の広がりを感じる。

効果③ 学生の感想

Q.この経験を今後どのように活かしていきたいですか？

完璧ではない自分をさらけ出すことで、今まで自分の中にあった制限を飛び越え、「仲間に頼ること」や、「人を信じること」の重要性を実感できた。私も周りの人を助け、受容し、楽しい学生生活を**クラス**の皆と過ごせるように努めていきたい。

得た経験を自分の中に留めておくのではなく、アウトプットして**大学全体**がもっと良い方向に進むようにお手伝いしたい。

与那原町をより良くする活動をやっていきたい。



クラス・学校・社会等、周辺環境に対して「働きかける」という当事者意識が芽生え始めている。

今後の取り組み

- 与那原町未来戦略

 - 「よなばる綱がるプロジェクト」

- 与那原町まちづくり推進協議会

 - クリスマスイルミネーション実行委員会

- その他

地域と関わる課外活動を通して、
学生が「自分なりの意見と行動をする経験」を
支援してきたい。

最後に（担当者の気づき）

■ 「だからこそ」できることもある。

不自由な状況「だからこそ」

- 対面のありがたさに気付く。
- コミュニケーションを意識する。
- 積極的に取り組む。

アプリケーションを使う状況

- 「だからこそ」
- 工夫次第でコミュニケーションや情報の質が高まる。

■ 関わる大人が学生の成長を願い、可能性を信じられるか。それらを表現できるか。心がけが重要。

沖縄女子短期大学 教学課

連絡先：（０９８）８８２－９００３

<https://www.owjc.ac.jp/>

担当：津波古 吟枝